



突撃!

Vol.40 2012

リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

No.38 東北厚生年金病院 医療安全対策室 係長 木村 由佳理 様

■病院概要

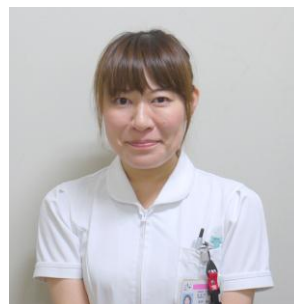
昭和 21 年 5 月、「宮城第一病院」として開設。(病床数 15 床)
 昭和 40 年 7 月、「社会保険宮城第一総合病院」に改称。(病床数 275 床)
 昭和 57 年 10 月、現在の地に移転し「東北厚生年金病院」に改称。(病床数 350 床)
 仙台市東部に位置し、仙台市と塩釜市、多賀城市、七ヶ浜町、利府町などを診療圏に含んでいる。病院の南側には、メタセコイアの並木が長々と続き、それと平行する道路に沿って七北田川が流れている。
 川の干潟には野鳥、対岸には釣り人の姿も見受けられる静かでゆとりある快適な医療環境の中にある。
 一般 436 床、精神 50 床の計 486 床。



【病院外観】

■基本理念 院是

『忠恕』(真心を着くし思いやりの心で努めます)の精神にもとづき、
 親切的医療・新しい医療・納得される医療の実践を行う。



【木村様の近影】

① 組織体制について

—医療安全の組織体制についてお聞かせ下さい。

当院では、組織横断的に院内の医療安全管理を行うために医療安全対策室を設置しています。
 医療安全対策室と連携して、医療安全対策を円滑に推進するために、各部門・部署には専任リスクマネージャーを配置しています。看護局は組織の母体が大きいため、看護係長が看護局のリスクマネージャーとして活動しています。
 また、医療安全管理に関する方針について多職種で検討・討議を行う組織横断的な委員会として、副院長を長とする医療安全対策委員会を設置しています。
 他には、医療安全管理者、専任リスクマネージャー、看護局リスクマネージャーが、院内で発生したインシデント事例について分析を行ったり、ワーキンググループを立ち上げて様々な対策を検討したり、医療安全に関するシステムの改善に取り組んでいます。

② 転倒・転落への対策について

—事例情報の収集から防止策の実施までの仕組みをお聞かせ下さい。

まず、転倒・転落リスクの度合いを計るために、入院時、患者さん全員に「転倒・転落リスク評価」を実施しています。

入院後は、病状や環境が変化した場合などに随時再評価する事になっており、患者さんの状態に合わせた対策を講じる事になっています。

しかし、実際は再評価ができていない事も多く、インシデント・アクシデントが発生してから、離床センサーを設置したり、ベッド柵を追加したりの対策をする事があるのも現状です。

転倒・転落事故は、患者さんの要因が大きいので“ゼロ”にする事は困難だと思いますが、人的対策や離床センサー、ベッド柵などと言った「物的対策」を採り入れ、事故の影響を最小限に抑える事が重要だと考えています。

—近年の事例発生件数はどのように推移していますか？また減少のためにどのような取り組みをされていますか？

院内全体のインシデント報告件数は、年間 2000 件以上になります。その内、転倒・転落は年間 350～450 件程度を推移しており、全体の約 20%を占めています。

最近、医療の高度化や患者さんの高齢化にともない、環境の変化や治療による活動の抑制などにより、不穩になれる患者さんが増えている印象があります。その事が転倒・転落事例の発生件数がなかなか減らない事にも繋がっていると思います。

事例発生の防止策としては、まず「人的対策」になりますが、マンパワーには限界があり、いくらこまめに巡回しても防げないケースもあります。

そこで、「物的対策」を活用し、事故に繋がる行動を早期発見しているのが現状ですが、現場が「物的対策」に頼りすぎてしまう事も心配です。「物的対策」は、あくまでも「人的対策」の補助と考え、患者様の“何か怪しい”という日頃と違ったサインを見抜けるリスク感性を高めて欲しいと思います。

今後は、現在休止している転倒・転落対策チームを再度起ち上げて、過去の事例分析を行い、対策の見直しに取り組んで行ければと思っています。

③ 離床センサーについて

—離床センサー導入の目的をお聞かせ下さい。

約 10 年前から、「転倒・転落リスクが高い患者さんの早期行動把握」を目的として、離床センサーを導入しています。現在は、ベッド上に敷くタイプの離床センサーを 18 台、ベッドサイドに設置するタイプを 12 台、床敷きタイプを 2 台運用しています。他に、センサー機能付きのベッドも 54 台あり、そのベッドに設置する接続アダプターは 19 台あります。台数はまだ十分とは言えませんので、今後も必要な機器をそろえて行きたいと思っています。

—離床センサーの管理、運用上の工夫があればお聞かせ下さい。

院内の離床センサーは、以前は中央材料室で管理していましたが、現在は医療機器管理室で管理しています。個々のセンサーはバーコードで管理していますので、貸出しと返却の管理がしっかりできますし、使いたい時にパソコン画面上で貸出し状況を確認する事もできます。

また、返却時は臨床工学技士により異常がないか点検してもらえ事がメリットですね。

昨年採用したテクノスジャパン製のベッドコール・コードレスは、営業担当の方に紹介してもらった衣装ケースがセンサーを入れるのにちょうど良いサイズで、収納や運搬にとっても重宝しています。ケースの中にはセンサー式と簡易マニュアルを入れていますので、設置や使用方法を確認しながらの運用が可能です。

【離床センサー管理画面】



【医療機器管理室での管理状況】



【離床センサーケース】



④ 最後に、何か一言お願いいたします！

私たちの使命は、患者さんに「安全・安心な医療」を提供する事です。

「問題は小さなうちに解決！」をモットーに、今後も医療安全推進のために努力したいと思います。